

求められているのは新しい時代の新しい都市づくりです。

都市づくりにはそれぞれの時代にそれぞれのテーマがありました。

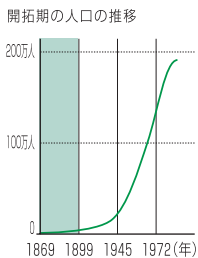
都市は生きています。札幌は1869(明治2)年、北海道開拓の拠点都市として計画的に誕生しました。これまで人口・産業の集中に対応し、道路網や公共交通を充実するとともに、新たな市街地を郊外部に計画的に整備するなど、受け皿を拡大することで大きく成長してきました。これからの都市づくりの基本方向を考えるに当たり、これまでの札幌の都市づくりをふりかえってみましょう。

開拓期

1869(明治2)年
▼
1899(明治32)年

北海道開拓の拠点都市として国による都市づくりがスタートしました。

- 都心部の原型の形成
- 周辺都市間、衛星村落間を結ぶ道路の形成



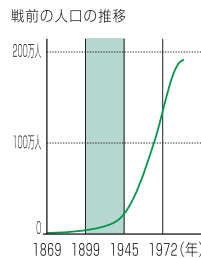
現道庁の位置より東を望む／1881(明治14)年

戦前

1899(明治32)年
▼
1945(昭和20)年

北海道の中心都市として、その成長を支える公共交通機関などが整備されました。

- 馬鉄、定山溪鉄道など公共交通の始まり
- 旧都市計画法の適用とさまざまな都市基盤の整備



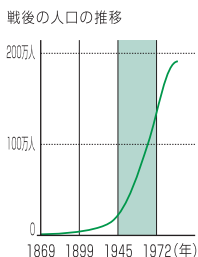
札幌停車場通りを行く馬鉄／1912(明治45)年

戦後

1945(昭和20)年
▼
1972(昭和47)年

急成長を支える積極的な土地区画整理事業やオリンピックを前にした骨格基盤整備が進められました。

- 都心周辺での区画整理事業の積極的实施
- オリンピックを前にした地下鉄などの基盤整備



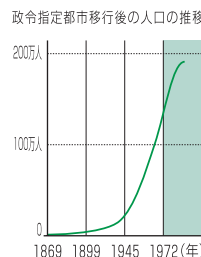
地下鉄南北線開通／1971(昭和46)年

政令指定都市移行後

1972(昭和47)年
▼
現在

新しい都市計画制度を運用し、計画的、効率的な市街地の整備・拡大を進めました。

- 無秩序な市街地拡大の抑制
- 良好な民間開発の誘導



地区計画が導入された郊外住宅地(清田区真栄)／2002(平成14)年